

農協の定期積金の動向

1 定期積金とは

定期積金（以下「定積」）とは、定積の契約者（以下「利用者」）が一定額の掛金を一定期間（通常6か月以上）定期的に払い込むことにより、金融機関が満期日に一定の給付契約額（元金と貯金利息に相当する給付補てん金を加えたもの）を利用者に給付するものである。

また、掛金の払込方法には、訪問集金、口座振替、店頭入金がある。このうち、訪問集金には、コストがかかるというデメリットはあるが、他方で、職員の訪問を通じて利用者との^{ちゅうたい}紐帯を深め、情報サービスの提供等により取引深化を図れるというメリットがあると考えられている。

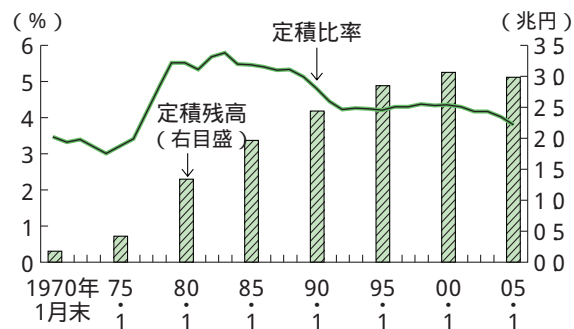
本稿では、農協の定積の推移や取組みについてみてみたい。

2 定積残高の推移

2005年1月末における農協の定積残高は2兆9,800億円となっている（第1図）。定積残高は03年10月末から前年比減少で推移し、減少幅は拡大傾向にある。

また、定積の推進状況を示す指標のひとつである定積比率（貯金残高に占める定積残高の割合）の推移をみると、70年代半ばから大きく上昇し、80年代前半まで上昇傾向にあった。上昇要因として、74年度下期の「農協全国貯蓄増強方策」から、貯蓄増強の手段として定積の推進に重点がおかれ

第1図 定積比率・定積残高の推移



資料 農協残高試算表

たことがあげられる。当時は、農外収入や准組合員、員外者の収入を貯金につなげることが大きな課題となり、利用者層の拡大や組合員との結びつきを強める手だてとして定積の積極的な活用が図られた。

このほか、給付補てん金は原則として非課税であったため、節税効果のある商品として注目されたことが影響したとみられる。

その後、88年4月に給付補てん金が源泉分離課税の対象とされたこともあり、80年代後半に定積比率は低下傾向となった。

90年代に入ると、金融自由化への対応として「ふれあい定積運動」が展開され、特典付定積や、カードローンや協同カードとのセット商品が推奨される等、定積が信用事業推進の柱のひとつとなっていたこともあり、ほぼ横ばいで推移していた。

しかし、2000年代に入ると、低金利の長期化、金融商品の多様化により積立型商品



の魅力が相対的に低下していることもあって、再び低下傾向にある。こうした動向を受けて、05年1月末の定積比率は3.7%となっている。

3 地帯別にみた定積比率，訪問集金の取組状況

このように，全国的には定積残高が減少傾向にあるなかでの定積に関する取組状況について，農協信用事業動向調査（04年11月実施）で聞いた。対象農協全体の04年9月末における定積比率は4.0%であった。

掛金の払込方法別にみた定積契約件数の割合は，訪問集金によるものが44.6%と最も多く，ついで口座振替が42.1%，店頭入金が13.3%となっている（第1表）。

ただし，地帯別には違いがみられる。定積比率は都市部ほど高い。また，定積契約件数のうち訪問集金によるものの割合は都市部ほど高い。対照的に，口座振替によるものの割合は農村部ほど高い。

近年，多くの農協では事業管理費，特に人件費の削減が進められており，その一環として渉外活動のあり方を見直す動きがある。

都市部の農協では，事業の中心が金融事業となっており，正組合員以外の地域住民による利用も多い。しかし，管内には他の金融機関が多数あることから，競争も激しい。また，集金先が集中しており，効率的に訪問できるというメリットがある。そのため，定積集金を通じた定期的な職員の訪

第1表 定積比率，掛金の払込方法別にみた定積契約件数の割合（2004年9月末）

（単位 組合，%）

		定積比率		払込方法別にみた 定積契約件数の割合			
		回答 組合数	定積 比率	回答 組合数	訪問 集金	店頭 入金	口座 振替
全体		338	4.0	318	44.6	13.3	42.1
地帯	特定市	44	4.3	35	61.5	9.0	29.5
	中核都市	50	4.2	43	46.7	15.3	38.0
	都市的農村	153	3.9	155	44.8	13.1	42.2
	農村	71	3.1	64	39.8	14.1	46.1
	過疎地域	20	1.6	21	25.6	15.0	59.4

資料 農中総研「平成16年度第2回農協信用事業動向調査」

問が，管内でシェアを維持拡大するための手段のひとつになっていると考えられる。

一方，農村部では，定積の契約のうち正組合員によるものが過半を占める。他の事業や活動を通じ，既に組合員とのつながりができている場合には，定積の集金を口座振替に切り替える等の対応をしていることも考えられる。

4 まとめ

2000年代に入り，定積比率は低下傾向にある。さらに，渉外活動の効率化のために，訪問先の見直しや，訪問を集金のみにとどめずに相談機能の強化や他の農協事業の利用につなげていく工夫が求められている。

そのなかで，定積の取組状況には，農協ごとの定積集金に対する位置づけの違いが現れているとみられる。都市化が進展している地域で定積の訪問集金が積極的に行われていることは，職員と利用者が直接にかかわり，顔の見える関係を維持することの重要性を示していると考えられる。

（研究員 小針美和・こばりみわ）